

5月号

第436号

# いっしん

令和3年(2021年)

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市  
加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-62-2895 /FAX 020-4665-5653  
Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/ 《HPはカラーです》

甘木親教会  
初代教会長  
安武松太郎師御款

まめなるを  
神の御幸と  
知る人は  
願うにまして  
礼びもうさな

教祖様138年 教団独立121年 小倉教会布教136年 甘木親教会布教117年  
安武松太郎大人70年 加治木教会布教70年…記念大祭 5月30日(日)



甘木親教会(4月25日)

甘木親教会

天地金乃神御大祭

仕えられる

少し早い春の訪れにつづく初夏を  
思わせる晩春の四月二十五日、甘木  
親教会では、安武道義親先生ご祭主  
のもと、天地金乃神御大祭が仕えら  
れました。

コロナウィルス変異株の流行によ  
る、第四波の到来が見られる福岡県  
下には、コロナ警報が発動される中、  
甘木親教会の御大祭は、出社・関係  
教会からの参拝は教師のみという態  
勢で仕えられました。

お広前には、席の間に十分は距離  
が取られ、お広前に入りきれない参  
拝者は、弥生会館ホールなどでモ二  
ター大型テレビを通して、ご祭典を  
拝ませてくださいました。

初夏を思わせる風が、爽やかにお  
広前を吹き抜け、厳かにご祭典が仕  
えられ、有り難いご教話を拝聴させ  
ていただきました。(ご教話は後に掲載)

甘木親教会御大祭…P1～4 矢野政美大人遺稿…P5～6 チャレンジカード…P7  
記念祭に向けての御用…P8 復興支援活動…P9 教会行事…P10

甘木親教会 天地金乃神御大祭  
 安武道義親先生「教話」(要席のみ)

令和三年四月二十五日

### 御用とは

私たちは、日々おかげを頂いて、いろいろと御用にお使いたたいております。お道では「御用」ということを申します。



お話の御用に使っていたたくと言いながら、不足を言うようなことがあり「これはいかなん」と思うようなことがあります。

お道では「御用」と言いますが、一般ではどうでしょうか。

小倉の親先生が、ある時「御用というのは、漢字でなければ」と言われたことがあります。「おん用いられるのだから」ということです。神様に用いられ使っていただくのだからということなのです。

御用という言葉調べてみますと「御用納め」「御用始め」「御用聞き」「御用商人」「御用達」「御用邸」などあります。

### 初代は飛びつくように

### 嬉し思いで御用

甘木の初代の親先生が、このお道にご縁を頂かれ、小倉教会にお参りを始めて間もない頃に、自分もお掃除などをさせていただきたいと思っておられたところ、ある時桂先生から「安武さあ、あんたもどうかかな」

と声がかかったそうです。

すると「飛びつくように掃除をさせていただいた、嬉しくて嬉しくて」ということだったそうです。

参拝者の便所の壁塗りをしながら「数ある氏子の中で、このお道の信心をしている者はわずかであるが、その信者の中から安武は選ばれて便所の壁塗りをお手伝いさせていただいている、何という有難いことであろうか」といことでもあります。

「このところは何度も読ませていただいておりますが、自分自身が御用を言われて飛びつくように嬉しかったという経験は私にはありません。

### 夜通し歩いて

### 有難うと有難うと

また、小倉教会に修行に上ってからのことですが、小倉教会の親先生から「今から糠塚まで行ってくれなにか」と、糠塚は遠賀郡の岡垣町の辺りだそうです。

小倉から遠賀まで相当あります。五里(二十里)以上あるようです。糠塚

教会は、のちの芦屋教会で、二村という先生が御用されておられたそうです。

その二村先生に、桂先生がお葬儀を頼まれ自分が行けないから二村先生に行ってもらうことを伝えに行ってくれということだったそうです。

糠塚教会まで迎えに行つて、カバンを持って小倉教会まで来て終わりはありません、そして「大里まで葬儀のお手伝いに行つてくれ」と言われたということですよ。



糠塚まで五里(二十km)ほど歩いて帰つて来て、また大里まで三里十二kmほど歩いて行つて葬儀のお手伝いをして帰るといふことです。

初代は、疲れて帰つて来たでしょうが「夜通し寝ずに御用しても疲れもせず、有難うとて有難うてならなかった」といふことです。

今日でもいろいろな御用があります、私は「有難うとて有難うてならない」といふ、そのような気持ちにはなかなかたえません。

### 記念林根ざらいの御用で

前の親先生の『心神』(令和二年十一月発行)という本にあることですが、昭和二十九年、甘木教会布教五十年の時に、前の親先生が初めての記念祭を迎えられて、その記念事業として「記念林」として山を買わせてもらつて、そこに植林をして育ててその木が大きくなつたらお役に立たせていただくことだったそうです。

そこで、江川という所で、今は福

岡市に水を供給する江川ダムがあります。

そこに植林をして、苗が小さいうちは、根ざらい(苗の周辺の草刈り)をしなければならず、少し育つと枝打ちということがあり、何年も御用があつていました。

今はダムの少し上の方で、近くまで車で行くことができます。木もだいぶ大きくなって、根ざらいも必要なくなっています。

私が小学校一年生の時でしたが、オート三輪車や荷物を運ぶ車で行つてことを覚えています。

昭和三十年から少し後のことだと思いますが、青年会を始め信者さん方が、根ざらいに行かれてお腹をすかせて帰つて来られる時には、日が暮れる頃に帰つて来られるということがあったようで、そういう時には、教会でご飯を炊いておにぎりやお神酒を用意することもあったということです。

私の記憶しているところでは、記念館の前に卓球台を出して、そのようなことがあつておりました。

## 勿体ない有り難いで

そういう時に、前の親先生が「お下がりやお神酒はあるから、いくらでも下げてやってもいいけど、一日手弁当で一日ただ働きで帰ってきてお神酒くらのことは当たり前じゃと、もし思うようなことがあったら大変じゃ、せっかく一日御用したことが何にもならん、何にもならんくらいじゃないマイナスじゃ、ほんとうに勿体ない、有り難いのでなければいいけれども、よほど注意せねばならんと、絶えず言うておるわけですよ」ということですね。

「口では信心は無条件などと言いつつ、人間には往々にして一生懸命になれば、そのことに対して何かしてもらわないと物足らないことになりがちな心が動きます」ということです。

ほんとうに人間にはそういうところがあるように思います。

御用ということについて使ってもろって有り難いくということですが、へ何かしてもろってもよいだろ

うくという、そういう思いになりまますよね。

そういうことでは、御用が御用にならないということですね。

ほんとに、御用というものは、神様に心を向けて使ってもらおうということのようですよ。

その辺のところは、段々だんだん少しずつズレて行っているような気が、私自身に甘いと言うか、そういうところがあるなという気がします。私自身、御用に対して何かもらおうとか何かしてもらおうということではならんということとはわかってはいるのですが、何かそういうのがあるのです。

何かしてもらわないと不足に思うということがあることでは、それでは御用にならないので、改めて、これはお道に信心では、ほんとに大切なところではなからうかと思わせていただきます。

御用させていただいておると思っても、その御用が御用にならないということですよ。

## 本当の御用になっっていない

へこれだけ御用しているのだから、何かあってもよさそうなものに〜というような思いが起るようなことで、御結界の御用をさせていただいて、下がってきた時に「今日はお苦勞様でしたお茶でもどうぞ」と言われたならば気分が良いでしょうが、知らんぷりされるといふようなことだったら、どうですか？へあれだけ御用してるのに〜と思われませんか？

私は時々思うのです。へいかな〜〜と思うのですが。それでは、御用、御用と言いながら、御用になっっていないとつくづく思います。

今日は先生方が多いのですが、信者さん方にも、それぞれにいろんな都合や用事があって、それに教会の御用がありますが、難しいことがあります。

甘木の初代は、親先生からのお言葉で、寝ずに御用させてもろって、それがほんとうに有り難うてならなかったという、そういう頂き方です

ね。

芯からそう思える頂き方ですね。

言葉だけではなくほんとうに有り難いという思いで、そうでないとは本當の御用にならないという事です。

私自身は、言葉だけの御用になっておることが多いように思います。

改めて御用ということを取り直さなければならぬと思います。

今日は天地の親神様の御大祭です。今の時季は野山に天地のお恵みお働きを感じます。

コロナ禍の状況も段々厳しくなってきました。皆さんも気をつけておかけを頂いていただかなければと思います。



遺稿



布教二十年記念大祭を

お迎え奉るにあたりて

矢野政美

「いっしん」昭和四十六年十二月号より

いよいよ記念大祭の月を迎えさせていただきます。有り難いことでもあります。

奉迎準備で忙しい中にも、静かに過ぎ越し二十年間を振り返らせていただきますと感無量の思いがいたします。

ようもようも私のような愚鈍な者、至らない者を、神様は許しに許し下さって二十年間御用にお引き回しく

ださり、御引立て下さったことよただただ恐れ多く勿体ない気持ち致します。

記念冊子の『母の想い出』の中にも書かせていただいておりますように、どれほどの甘木親先生の御祈り、先輩諸氏始め、今は亡き両親の一心の願いが、かけられてあったことかと、しみじみ思わせていただきます。

実(げ)にも神みかけは限りなく大無辺であります。そのみかけに對し奉り、自身の信心生活の至らなさ、行き届かなさ、神みこころに添わないことになってはいないかと、強く反省会させていただきます。

二十年という大きな節を迎えさせていただきます。三代金光様の「全教一新全教一家」の神みさとしの如く、いよいよ心を新たに生まれ変わらせていただいた気持ちで、新出発の門出させていただきたいと、念願させていただいております。

皆様方もそれぞれに、みかげ蒙られ各自の信心を以ってこのたびの記念大祭を迎えられ真にめでたいことに思わせていただきます。

ともどもに真心込めて記念大祭を迎えさせていただきましょ。

### 道について

矢野政美

「いっしん」昭和四十七年九月号より

すべてのものに「道」があり、何をすることも道に基づいてまいりませんと、勝手気ままに風の吹くまま気の向くままというような生き方ではありませんと、真実な生き方にはなってまいりません。

私もが求めております道、言うならば人生行路と申しますが、生かされて生き、天地あめつちのみめぐみと、あらゆる恩恵を受けて生きております私もが、天地金乃神様の御氏子として氏子らしい生き方をさせていただく道を信心と申すのであります。

そしてその生きた生き道を私どもにお示し下さいました御方が教祖の神様であられ、もっと身近にその教祖の神様の生きられ方を私どもに教えて下さったのが、甘木の御先代親

先生と言えましょ。

なおも、教祖の神様は、恐れ多い言い方ですが、「くくく普通のご家庭にお生まれになられ、実意丁寧な信心一筋にお進みになって、末は生神金光大神のご境地にまでお進みになったのであります。

そうして天地金乃親神様から「世間になんぼうも難儀な氏子あり取次ぎ助けてやってくれ」との神依ざしをみ受けになられ、その御取次の御業が今日に至る百十三年間、脈々として仕えられておりますことは、何とありがたいことかと、しみじみ思わせていただきます。

この尊い道にご神縁いただいております私どもは、世界一の幸せ者といえましょ。

共々にこの道をまかせていただき、人々にも伝えさせていただきましょ。



## ご霊神様のおまじり日

### 五月

- 平地ヨシ子 之霊神 (1日) 昭和18年
- 松田俊夫 之霊神 (3日) 昭和20年
- 福元久伸 之霊神 (5日) 平成9年
- 溝口孝治 之霊神 (5日) 平成25年
- 信國道雄 之霊神 (6日) 平成16年
- 信國道子 之霊神 (10日) 平成27年
- 田中恵 之霊神 (10日) 平成29年
- 庄村ヒテ 之霊神 (12日) 平成12年
- 津上國臣 之霊神 (14日) 平成18年
- 吉屋紀元 之霊神 (20日) 平成29年
- 向江喜右衛門 之霊神 (20日) 昭和54年
- 中園千恵子 之霊神 (23日) 平成25年
- 向江ハツギク 之霊神 (28日) 昭和47年
- 須藤実行 之霊神 (29日) 平成13年



「先祖のご霊神様の、現世・幽冥(かくりよ)でのお働きあつての今日の私たちであります。

立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。教会では、十日の月例祭で、霊前で霊祭をお仕えし、玉串の奉てんを準備してあります。

# 「チャレンジカード」

## とりくみまじょう!

少年少女会「チャレンジカード」は、五月から七月までの、信心の「取り組み表」です。

子どもたちだけでなく、お父さん・お母さん・お祖父さん・お祖母さん、みんなで応援してください。

七月十五日まで取り組んだ人は、教会に持ってきてください。全国大会の作品展で掲示されます。また、教会の神様におそなえしてお礼申し上げ、教会の少年少女会からも、ステキなごほうびをいただけます。

「第74回 少年少女全国大会」に向けての取り組みです。八月七日(土)・八日(日)の開催は、今後の状況を見て判断される予定です。

しかし、日々の信心の取り組みは、神様に感謝をささげる信心の稽古です。大会が開かれなくても、取り組みさせていただく意味合いは十分にあります。



※詳しくは、カードと一緒に配布された説明書きをお読みください。

中学生と、小学校低学年以下の「チャレンジカード」は、チャレンジ項目も、デザインも変わります。

### あしあと(教会行事報告)

4月

- 1 (木) ●報徳月例祭 10時半
- 3 (土) 甘木親教会参拝日
- 3 (土) 4 (日)
- 8 (木) ●御本部天地金乃神御大祭 参拝
- 9 (金) 中村ミツエ刀自 告別式
- 10 (土) 中村ミツエ刀自 清掃御用 10時
- 10 (土) ●生祭堂月例祭 10時半
- 11 (日) ●大神様月例祭 10時半
- 11 (日) ●ペンキ塗り作業(高麗教会外壁)
- 12 (月) ●連(連)青少年行事企画会議 10時半
- 15 (木) ●連合会執行部会 10時半
- 18 (日) ●都城教会 御大祭 10時
- 21 (水) ●清掃御用 10時
- 22 (木) ●月例祭・共励会 13時半
- 25 (日) ●甘木親教会 御大祭
- 29 (祝木) ●少年少女会(野外調理)
- 30 (金) ●清掃御用 10時



四月九日、中村ミツエさん(一〇四才)がお国替えされました。霊の道立てとご安心をお祈り申し上げます。

葬儀は金光教式で仕えられました。写真は一昨年三月四日、百寿のお誕生祝の時のものです。

加治木教会

# 布教七十年記念大祭

に向けて

【四月十一日】

昨年夏の台風で飛んでしまったいた玄關前のタキロン屋根の修繕が終わった後、鉄骨の錆が目立つようになっていたため、記念祭まであと四十九日となった、四月十一日(日)ペンキ塗りをさせていただきました。

「保育園の遊具でペンキ塗りの経験がありますから」と御用におかけを頂かれた方もあり、塗装作業が進みました。



【四月二十九日】

この日は、少年少女会会の「野外調理」が予定されていましたが、九十%以上の降雨の予報通りのお湿りで中止となり、昨年から詰まっていた、流しから合併浄化槽への十数メートルの配管詰まりの除去作業を行いました。



昨年の秋の、流しからの除去作業では除去できませんでした。そのため、後日お広前あたりの畳

や床をめくっての少し手の込んだ作業を予定していました。

しかし、今回は、昨年からの人吉教会で豪雨災害復旧作業をさせていただいたおかげで、床下に潜っての作業や、床板張りの御用に何度も当たらせていただき、床の構造や修繕方法を把握できていたため、意外に作業がはかどり無事に除去作業を完了できました。



### 令和二年七月豪雨 復興支援活動

【四月十二日～十七日】  
【四月二十七日(土)】

人吉教会において、甘木親教会から教師・信徒の皆さんはじめ、周辺教会から毎日数人の奉仕者が駆けつけ、ご神前周辺の大工仕事（床のフローリング張りや壁板張り）の支援活動奉仕作業がありました。

木山教会在籍の、宮大工でもある中山さん（お嬢さんは山西教会長夫人）が的確な指示をされ、作業がはかどりました。加治木教会からも教会長が三日間ほど御用におかけ蒙らせていただきました。



【三月二十七日(土)】  
人吉市「青井阿蘇神社」の境内で、「つなGOランドin国宝青井阿蘇神社」という復興イベントが開催され「益城町木山仮設団地応援団」が焼き芋屋とたこ焼き屋を出店し「移動図書館おあしす」のスタッフ(肥後浜町教会橋本信一先生ほか)がたこ焼き屋を出店したため、お手伝いをさせていただきます。



加治木教会はじめ、人吉市の近隣の教会からお手伝いに来ておられました。

この日、六個入り（百円）が百二十パック完売し、お客さんは皆喜んでおられました。売り上げは皆主催者に寄付されました。

